

大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム

2025 年度第 2 回共同 FD オンデマンド研修会

「地域・産業界との連携を通じた 実践的な学びと授業事例」

本研修会では、地域や産業界と連携した各大学の授業事例を通して、実践的な学びや教育効果を理解することを目的とします。あわせて、地域社会や産業界との関わりが大学教育に果たす意義を考え、授業改善や新たな連携を考える機会とします。

視聴希望の方は事前申込が必要となります。以下の概要を確認のうえ、お申し込みください。

【配信期間】 2025 年 9 月 24 日（水）～ 10 月 6 日（月）

※期間中は何度でも視聴可能

【実施方法】 オンデマンド配信（申込者のみ視聴可能な YouTube 限定公開）

【対象者】 大学コンソーシアム市川参画大学及び他大学教職員等（無料）

※職員は SD 研修会として実施します。

【配信内容】 裏面参照

【申込方法】 2025 年 9 月 19 日（金）16:00 までに、以下の URL または QR コードよりお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/Py6X6vHzPT>

※大学コンソーシアム市川参画大学教職員は、申し込みは不要です。



【問合せ先】 大学コンソーシアム市川 教育活動部会

（〒272-8533 市川市国府台 2-3-1 和洋女子大学 教務課）

TEL 047-371-1124

E-mail wayo-consortium@wayo.ac.jp

【主催】 大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム

【お願い】 視聴 URL は申込者以外に共有しないよう厳守ください。

動画の複製や無断利用などの行為も固く禁じます。

- コンソーシアムとは、法人・団体などが特定の目的のために結成される共同体をいいます。
- 「大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム」は、市川市内にある和洋女子大学、千葉商科大学、東京科学大学、昭和学院短期大学、東京経営短期大学、環太平洋大学国際経済経営学部及び市川市、市川商工会議所により設立され、地域の高等教育及び地域社会の発展に寄与することを目指しています。
- 本 FD は、和洋女子大学、昭和学院短期大学が担当校として運営いたします。

【配信内容詳細】

概要説明	大学コンソーシアム市川 教育活動部会部会長 昭和学院短期大学教授 加藤 智樹
講演 1	「未来を生きる保育者のための地域連携・企業連携教育」 昭和学院短期大学 人間生活学科 こども発達専攻長 白岩 等 本学は幼稚園教諭と保育士資格の取得率が 96.4%と極めて高く、卒業生は近隣の保育園、幼稚園で活躍している他、市川市からこども支援センターの委託を受け、保育人材育成と子育て支援で地域に貢献している。また、質の高い先進的な教育を心がけ、企業連携教育も推し進めている。今回は、こども支援センターを活用した教育、ソニーグローバルエデュケーション(株)と行った「こどもプログラミング」に関するカリキュラム開発と連携教育、地元の山崎製パンクリエイションセンターのご協力を得て実現した授業の3例について報告する。
講演 2	「地域と繋がる保育学生の取り組みについて」 東京経営短期大学 こども教育学科 助教 吉野 満里恵 本学こども教育学科では、「子どもとあそびⅡ」「子育て支援実践演習Ⅱ」の授業を通して、地域社会と連携したアウトリーチ型の取り組みを行っている。その目的は、学生が地域住民や地域の活動に積極的に関わることで地域の活性化を促すとともに、各活動の企画・実践を通して、保育学生としての企画力を養い、保育的な視野を広げることにある。さらに、これらの経験を通じて学生がどのような学びや気づきを得るのかを明らかにすることも大きな意義といえる。
講演 3	「市川市農園の規格外野菜の付加価値化」 環太平洋大学国際経済経営学部 特任教授 上田 隆穂 このテーマは、2025 年度前期の環太平洋大学（東京キャンパス）の「フィールドワーク」という授業で行なわれたものである。その目的は、地域活性化の一環であり、地域内の農園で生産され、規格外野菜として安売りされているものにいかに付加価値をつけて地域産品ブランドを創造し、農園の収益をあげ、そして最終的に地域空間ブランドにつなげてゆくことにある。 このフィールドワークでは、地域の複数量販店、1つの農園に協力を得て、グループワークにより学生が3種類のプランのレポートを作成し、農園にプレゼンテーションを行った。
講演 4	「和洋 well-being プロジェクトの紹介」 和洋女子大学 産官学・地域・生涯教育センター長（健康栄養学科 教授）鈴木 敏和 和洋学園では、和洋女子大学を主体として2025年4月より「和洋 well-being プロジェクト」を開始した。本プロジェクトは、地域社会や産業界との連携を通じた実践的な学びの取り組みを体系的に整理・カタログ化し、学生の主体的な参加の促進、教職員による既存活動への参画（相乗り）の支援、各取り組み間の連携強化、ならびに地域社会への分かりやすい情報発信を目的としたプラットフォームの構築を目指している。 本講演では、プロジェクトの進捗状況とともに、今後期待される教育的・社会的効果について報告する。
講演 5	「千葉商科大学「水環境ゼミ」 ～市川市じゅん菜池再生をめざして～」 千葉商科大学 基盤教育機構 教授 杉田 文 市川市じゅん菜池では、水質悪化や外来種の侵入により、絶滅危惧Ⅰ類を含む在来水草の多くが消滅している。この状況を受け、2017年に地域住民・行政・学校・大学が協働して池を再生する「じゅん菜池プロジェクト」が発足した。私たちのゼミではプロジェクトに参加し、①科学的調査と環境改善策、②小学校の環境学習支援、③地域住民・専門家との交流などを行っている。活動を通じて学生は、自然科学的知識、課題発見・解決力、地域連携力を養い、環境保全の意義と社会貢献を実感することを目的としている。